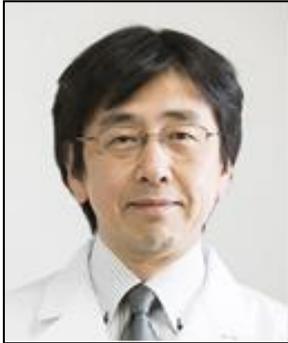


平成 28 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「奨励賞」



武地 一 (たけち はじめ)

1961 年 1 月 24 日生まれ

【授賞理由】

武地氏が目指した医療・ケアの専門家と市民の協働は、認知症の人と家族の葛藤や困難を緩和するとともに生活の場そのものとなる地域コミュニティを創設しました。これは、医療とケアの新たなソーシャルキャピタルをデザインしようとする試みであり高く評価することができます。

【略歴】

1986 年 3 月	京都大学医学部医学科卒業
1986 年 6 月～1987 年 5 月	京都大学医学部附属病院（内科研修医）
1987 年 6 月～1989 年 3 月	福井赤十字病院（内科医員）
1993 年 4 月～1996 年 3 月	新技術事業団（研究員）
1996 年 4 月～1999 年 3 月	ザール大学生理学研究所（博士研究員）
1999 年 4 月～2000 年 6 月	京都大学医学部附属病院老年内科（助教）
2010 年 7 月～2014 年 3 月	京都大学大学院医学研究科加齢医学（講師）
2014 年 4 月～2016 年 3 月	京都大学大学院医学研究科臨床神経学（講師）
2016 年 4 月～	藤田保健衛生大学医学部（教授）

【業績および活動内容】

認知症の医療とケアの両面からのアプローチを通じて、認知症によって引き起こされる本人・家族双方の葛藤や困難を緩和し、本人・家族が本来持つ力を発揮できることをめざして継続的に活動を行ってきた。認知症の初期の頃から起こる変化、その後、徐々に起こる変化を医学的に把握し、認知症の人や家族、地域の人々、専門職に伝えるとともにケアの側面からの理解にも努め、地域の多様な人材・資源が協調して取り組みを行えることを目指している。

内科臨床、神経科学の研究などを経た後、1999 年 4 月に大学病院としても忘れ外来を開設し、認知症の早期診断・早期ケアにつながる活動を開始した。臨床心理士、ソーシャルワーカー、言語聴覚士、作業療法士、看護師などと連携して、医療だけでなくケアを含めた認知症の人と家族への支援を行っている。2011 年より京都における医療・介護・当事者の活動である京都式認知症ケアを考えるつどい実行委員会に参画し、2012 年 2 月に京都文書 2012 の提言に加わった。2012 年 4 月より認知症カフェの活動を計画し、同年 9 月より認知症カフェを自らが店長となりオープンした。2014 年 4 月認知症カフェを運営・推進する特定非営利活動法人オレンジ commons を設立し、理事長に就任。また、同時期より 2 つめの認知症カフェを行

政区内の専門職とともに開始した。2014年6月より京都認知症カフェ連絡会を結成し代表世話人も務めている。